

第 2号刊行によせて

日本社会福祉学会中国四国地域ブロック

担当理事 横 山 正 博

中国・四国地域ブロック機関誌『中国・四国社会福祉研究』第2号をお届けします。

昨年度ようやく念願の創刊号を発行することができましたが、今後は、以下の2点が大きな課題と思われます。

1) 機関誌の継続発行について

2013年度から編集委員長を交替します。新編集委員長のもとで、会員諸氏のご協力を賜りたいと思います。今後は、ゆるやかに編集委員も交替し、会員全体で盛り上げて、継続発行できる体制を整えていきたいと思います。

2) 投稿論文数の増加

創刊号、第2号とも各4本の投稿がありました。さらなる投稿を期待したいところです。査読は、なるべく掲載が可能となるようにサポータティブに行ない、投稿の年度内に掲載する方針です。特に、若手研究者あるいは現場実践者の積極的な投稿をお願いします。一方で、若手研究者の研究環境を整えていく仕組みも地域ブロックで考えたいと思っております。また、地域ブロック大会で自由研究発表された会員には、それを論文の形に仕上げて投稿をお願いしたく存じます。

ところで、会員の研究テーマ、研究方法も多様化しています。最近では、特定の具体的な実証的な課題について、研究者と実践者そして地域住民やサービス利用者がとともに解決し、あるべき社会を実現していくアクションリサーチという研究デザインを採用した研究も増えつつあります。伝統的な実証主義に対しての新たな挑戦ともいえる研究デザイン法ではないかと思われます。

まさに、東日本大震災の復興のありように関連して、われわれ研究者としての、実在論、認識論、方法論が問われているところではないかと思われます。会員諸氏同士で、研究とは何か、どのような哲学上の前提で、そして方法を採用して、具体的な研究活動を展開していけばよいかという根源的な問いも立てつつ、機関誌の内容をより充実していくことが必要ではないかと思えます。

本機関誌が、会員同士の学術交流の場、そして社会に対する研究成果の公表の場として積極的に活用されるように、会員間で盛り上げていただきますようお願い致します。